

江戸川大学総合福祉専門学校  
学校関係者評価委員会議事録  
(平成 28 年度)

平成29年4月  
学校法人江戸川学園  
江戸川大学総合福祉専門学校

## 1. 学校関係者評価委員会開催概要

開催日時	平成 29 年 3 月 11 日(土) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分	
開催場所	江戸川大学総合福祉専門学校 F102 会議室	
参加者(敬称略)	江戸川大学総合福祉専門学校同窓会会長 社会福祉法人修央会 船橋笑寿会 相談室長 学校法人江戸川学園江戸川大学特任教授	皆川博行 平尾悟 茅野廣行
欠席者(敬称略)	江戸川大学総合福祉専門学校後援会会長 駒木自治会会長 千葉県立流山南高等学校校長	川崎一也 渡邊治 高橋一博
学校側参加者(オブザーバー)	江戸川大学総合福祉専門学校 校長 " 学生部長 " 事務部長	桑田知明 城田和明 奥山武浩

## 2. 議事内容

委員会の成立及び議長選出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の参加者及び欠席者を確認(委員 6 名のうち 3 名出席)し、定足数(委員の過半数)に達していることを確認。</li> <li>・委員の互選により皆川博行氏を議長(委員長)として選出。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の趣旨及び議事進行について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸川大学総合福祉専門学校校長(以下 校長)より本委員会開催に関し、「学校評価に関する関連法令」及び本委員会の開催主旨、評価結果の開示状況などについて説明がなされた。</li> <li>・議事内容・進行については、「学校自己評価報告書(平成 28 年度)」(各評価項目)に基づき「課題のあるところを中心」に審議し、評価を行うこととした。</li> </ul>

### 学校自己評価報告書

#### 1. 学校の教育目標

#### 2. 本年度中に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より「学校自己評価報告書」内容(目次・各評価項目等)の説明が求められ、校長よりまず「1. 学校の教育目標」、「2. 本年度中に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画」について説明がなされた。</li> </ul>
--	--

#### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、(1)の項目の「課題」についての説明が求められた。</li> <li>・校長より、(1)の項目の「課題」について説明がなされるとともに、専門職業大学(短期大学)(仮称)に関連する本校の将来構想については、学校教育法等必要な法律や学校設置基準の改正が完了していないため不明瞭な点があるとの認識が併せて示された。</li> <li>・江戸川大学特任教授の茅野廣行氏より評価項目「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」についての説明が求められた。</li> <li>・校長より、大学で学ぶことに近い分野(特に社会福祉科、心理・精神保健福祉科)を 2 年間で学習できるという点で社会的ニーズがあると考えている。今後の専門職業大学(短期大学)(仮称)へ向けた取り組みでまた新たなニーズが生じると思われるとの報告がなされた。</li> <li>・議長(委員長)より、専門職業大学化によって 4 年制になると学費が上がると進</li> </ul>
------------	--

	<p>学したくてもできない人が増える。専門職業大学化すべきなのかというのも今後の課題ではないかとの意見がなされた。</p>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、(2)の項目の「課題」についての説明が求められた。</li> <li>・校長より、学生情報システムに関しては、本校独自のシステム化を行っているがまだ整備しきれていない部分があるとの報告がなされた。</li> <li>・学生部長の城田和明氏より、学内各部署で取り扱われている学生情報をデジタル化している最中で低コストでの ICT 化がこれからの課題であるとの報告がなされた。</li> <li>・議長(委員長)より、評価項目「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」に関して、江戸川大学特任教授の茅野廣行氏に意見を求められた。</li> <li>・江戸川大学特任教授の茅野廣行氏より、学校規模に見合った ICT 化が必要であるとの発言がなされた。</li> <li>・議長(委員長)より、情報システム化だけではなくさまざまな工夫による業務の効率化を図っている点が評価できるのではないかと発言がなされた。</li> <li>・校長より、毎年度学校自己評価、学校関係者評価を適時に実施するほか、大学では既に義務化されている第三者評価の仕組み作り及び実施が今後の専門学校全体の課題だとの報告があった。</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、(3)の項目の「課題」についての説明が求められた。</li> <li>・校長より、(3)の項目の「課題」についての説明がなされた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 各福祉施設での実習における教育指導結果を踏まえカリキュラムの見直しを行っているが「関連分野の企業・関係施設等や業界団体」と協議するなど直接検討しているわけではない。</li> <li>* 実習施設との連携による実技・実習等が体系的に位置づけられているが、「産学連携」とまでは言えない。</li> <li>* 実習施設との学生指導の連携、実習結果の報告会等外部関係者との連携を図っているが、「評価を取り入れている」とまでは言えない。</li> <li>* 授業評価は本年度より書面から web 入力方式に変更し各期に実施しているが、回答率向上など改善の余地がある。</li> <li>* 各教員の資質向上に向け学会等への参加を奨励しているが、教員により取り組みの程度にばらつきがあり取り組みが必要な面がある。</li> <li>* 毎年紀要を発刊しているが、教員の参加が十分とは言えない。</li> </ul> </li> <li>・茅野廣行氏より、特に(実習施設との)連携に関連して各評価項目の評価が低めではないのかとの意見がなされた。</li> <li>・校長より、この意見に対して、カリキュラムを細かく検討し、各関係施設に意見を求める仕組みを作れば、具体的な意見が上がってくる可能性があると考えこの様な若干低めの評価になったとの認識が示された。</li> <li>・平尾悟氏より、教員と実習施設における実習指導者との連携を強化すれば、より良い評価になるのではないかと意見がなされた。</li> <li>・平尾悟氏より、教員の研究成果を外部や学生に公表しているのかという質問がなされた。</li> <li>・学生部長の城田和明氏より、授業内で触れることがあるかもしれないが、組織的に組織的に伝えることはしていないとの返答がなされた。</li> <li>・議長(委員長)より、紀要を含め研究成果をネットで公開するなど積極的にアピールして良いのではないかと意見がなされた。</li> </ul>

<p>(4)学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、(4)の項目の「課題」についての説明が求められた。</li> <li>・校長より、(4)の項目の「課題」についての説明がなされた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学級担任制や学生相談室の設置等相談しやすい環境を作り「退学率の低減を図」っているが退学を防ぎきれない。</li> <li>* 同窓会において一定数の卒業生の住所等を確認しているが、卒業生からの連絡により変更を把握する体制のため十分な現状確認ができていない。</li> <li>* 卒業生の現状の把握と同様に卒業後のキャリア形成の把握も十分ではない。今後は同窓会と協力して改善したい。</li> </ul> </li> <li>・退学率の低減に関して、平尾悟氏より退学率がどの程度なのか質問がなされた。</li> <li>・校長より、1割程度であるとの返答がなされ、またその改善が課題でもあるとの認識が示された。</li> <li>・卒業生の把握に関して、議長(委員長)より、同窓会会長として、現在名簿のメンテナンスを依頼する管理会社を探している、また名簿の更新を卒業生が web 上で行えるように変更する予定であるとの報告がなされた。</li> <li>・校長より、卒業後の動向・活動についての情報の把握に関して、今後は、ブランクの長い卒業生の再教育、卒業生のキャリアアップを中心に積極的に関わりたいとの考えが示された。</li> </ul>
<p>(5)学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、(5)の項目の「課題」についての説明が求められた。</li> <li>・校長より、(5)の項目「進路・就職に関する支援体制は整備されているか」に関して、実習・就職課の設置等進路・就職への支援体制を整えているが学生の就職への意欲に関して指導しきれない面が課題であると説明がなされた。</li> <li>・議長(委員長)より、学校側が企業を招いての説明会を主宰してほしいとの要望が示された。</li> <li>・校長より、大規模な就職説明会の開催は難しいが、オープンキャンパス時には毎回5～6施設を招いて施設の紹介をしてもらっているという報告がなされた。</li> <li>・校長より、(5)の項目「卒業生への支援体制はあるか」に関して卒業生から要望があれば教員などが相談に応じているが支援体制の窓口があるわけではないと説明がなされた。</li> <li>・議長(委員長)より、支援体制を強化して仕事を辞めなくなった卒業生の相談先となって欲しいとの要望が示された。</li> <li>・学生部長の城田和明氏より支援体制の窓口があるわけではないが、担任制が同様の機能をしているとの説明がなされた。</li> <li>・平尾悟氏より、担任制は仕事を辞めなくなった場合、卒業生の相談先として機能しているとの評価がなされた。</li> <li>・校長より、(5)の項目「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」に関して社会人の学費軽減のために国の教育訓練給付制度を取り入れているが、ニーズの有無が不明なので夜間部などには対応していないとの説明がなされた。</li> </ul>
<p>(7)学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、「(7)学生の受け入れ募集」について審議(評価)が行われた。</li> <li>・ここで、評価項目「学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか」の評価が「3」であったことについて説明が求められた。</li> <li>・校長より、高等学校等での学校説明時や学校見学実施時に広報担当だけでは</li> </ul>

	<p>なく教員を配置して情報を伝えるようにしているがどの程度「正確」なのかは判断が難しいとの説明がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、学校説明時に卒業生の声や受け入れ先施設の声を加えるとより正確に伝わるのではないかと意見がなされた。</li> <li>・平尾悟氏より、学校説明会などで学生に正確な情報を伝えることは学校や施設のPRになり学生に興味をもってもらえるようになるとの意見がなされた。</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、「(9) 法令等の遵守」について審議(評価)が行われた。</li> <li>・ここで、評価項目「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」「自己評価結果を公開しているか」の評価が「3」であったことについて説明が求められた。</li> <li>・校長より、学校評価の実施については平成 28 年度の実施で 2 度目となりまだ歴史が浅いため評価が「3」であると説明がなされた。</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、「(10) 社会貢献・地域貢献」について審議(評価)が行われた。</li> <li>・ここで、評価項目「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」の評価が「3」であったことについて説明が求められた。</li> <li>・校長より、学生ボランティアについては、学生ボランティア担当の教員を配置し学生のボランティア活動を奨励、支援しているが、それ以上の指導はしていないため評価が「3」であると説明がなされた。</li> <li>・学生部長の城田和明氏より、本学のボランティア募集方法について、学生委員会ボランティア担当部会からクラス担当に依頼し、クラス単位でボランティアを募集する。それと取りまとめてボランティア先に報告するので、組織的に集めるところまでには至っていないと補足説明がなされた。</li> <li>・議長(委員長)より、学校がボランティア参加者数を把握しておいた方が良くはないかと提案がなされた。</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、「(11) 国際交流」について審議(評価)が行われた。</li> <li>・ここで、評価項目「留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか」の評価が「3」であったことについて説明が求められた。</li> <li>・校長より、「入出国管理法」改正に伴い、今年度より国際交流の項目の検証を追加した。公立の改正を受けて日本での就労を目指す留学生の受入れ準備を進めている。平成 28 年度段階では留学生の受け入れを実施しているわけではないため評価が「3」であると説明がなされた。尚、平成 29 年度新入生より留学生の受入れを開始するとの付言があった。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長(委員長)より、すべての項目について審議(評価)は終了したが全体を通して何か意見・質問等があるか確認がなされた。</li> <li>・各委員より、学校運営について大変困難な環境であるが多くの学生を集めることが社会貢献につながるので今後も頑張ってほしい等の発言が見られた。</li> </ul>